

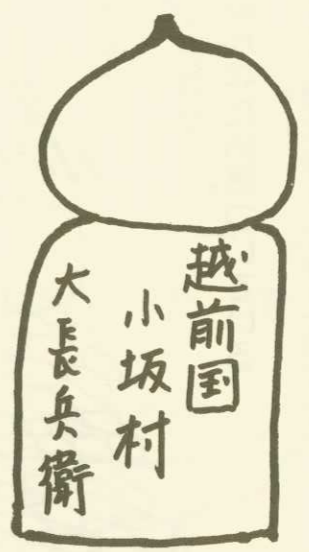
「この石におれの名前をきざんでくれるか。そしたら正面むけてやるけど。」

「お安いご用や。ちよっと待ってくんははれ。」

大長兵衛、自分の名前きざんでもろい、

「ほいきた。これでどうじゃ。」と、正面に向けな

おしてやったと。



### ⑤2 カップパとれんげ草

ごんだけ昔のことやろか。小坂の畑でおいさんが草取りしてるとの、子供に化けたカップパが、

「おいさん、ほくと水あびしようよ。」と、さそったんや。

「この草取りがすんだらな。」とどうたら、草取りを手伝ってくれたんやと。

おいさん、この子がカップパとわかったんで、「おう、えらかった。手伝ってくれて早うすんだ

わい、おおきこの。」

と、頭をなでながら皿の水をとってしもたんやと。皿の水がないとカップパは何もできん。弱いも

んやで、おいさん、

「お前が、また人をだましてわるさをするなら、今いっしょにしまっせ。」とびになった。びっくり

したのはカップパ。

「もう二度と出てきません。」と、地面に手をつい

て、あやまった。おいさん、

「そんなら、出てこん証拠でもあるんか。」と聞いた。

「はい、カップパはれんげ草の咲くところには出ます。

けど咲かんとこには出ません。」というた。

それから小坂には、れんげ草が咲かなんだんやと。

